



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和4年第30週 (7/25~7/31) 【概要版】

令和4(2022)年8月5日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- 感染性胃腸炎は、減少傾向にありますが、「例年より多く」報告されています。腸管出血性大腸菌感染症は、4例報告され、発令基準に達したため、7月27日に「腸管出血性大腸菌感染症多発警報」が発令されました。調理前の手洗いとともに、食品の取り扱いにはご注意ください。
- 手足口病は、東近江保健所管内で警報基準を超過しており、他保健所管内でも増加傾向にあります。
- RSウイルスは、「例年より多く」報告されており、増加傾向にあります。秋から冬に流行するとされていましたが、昨年と同様に、夏にかけて増加が見られています。
- 梅毒は、「例年より非常に多く」報告され、過去最多ペースで増加しています。主に性的な接触により感染する感染症です。予防にはコンドームが有用ですが、完全に予防できない可能性があります。皮膚や粘膜の異常など気になる症状があった場合は、性的な接触を控え、早めに医療機関を受診してください。

2. 報告数が多かった小児科定点把握疾患（五類感染症）ⁱ

(1) 滋賀県

疾病名	滋賀県			保健所別 (iv)									
	2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
感染性胃腸炎	4.11	3.44	3.11		○			多	↑		多	多	
手足口病	1.53	1.50	2.92				↑	↑	多	警	↑	多	↑
RSウイルス感染症	1.75	2.22	2.64		○		↑	多	↑	多	↑	↑	↑
ヘルパンギーナ	0.31	0.42	0.58				↑	多			多		多
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	0.22	0.39				↑		↑			多	多

(2) 前週の全国、滋賀県および近隣府県の状況（下線：滋賀県よりも多い）

疾患	全国	滋賀県	大阪府	京都府	福井県	岐阜県	三重県
感染性胃腸炎	3.02	3.44	3.22	2.46	3.3	1.66	<u>4.02</u>
手足口病	<u>2.14</u>	1.50	0.47	0.54	<u>3.61</u>	0.23	0.95
RSウイルス感染症	<u>2.3</u>	2.22	<u>7.29</u>	<u>3.06</u>	0.96	<u>4.21</u>	<u>12.6</u>
ヘルパンギーナ	<u>0.54</u>	0.42	0.14	0.03	<u>0.43</u>	0.08	0.18
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<u>0.26</u>	0.22	0.22	<u>0.63</u>	<u>0.39</u>	0.19	0.14



3. 全数把握疾患（滋賀県、今週診断例）

類型	疾病名	滋賀県					保健所別						
		2週前	1週前	今週	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
二類	結核	4	2	6			3	1	1		1		
三類	腸管出血性大腸菌感染症	0	3	4	○		2	1	1				
五類	梅毒	3	1	1	○	○		1					

- 定点把握疾患：人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点（医療機関）で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。
- 警：警報発令、注：注意報発令
- 今週の値が過去5年の同時期（全数把握疾患は同時期の累積報告数）の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記（定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用）
- 「警：警報開始基準を超過」、「注：注意報基準を超過」、「多：今週の滋賀県の値よりも多い」、「↑：前週比増加」（「警報」、「注意報」、「多」、「↑」の順に優先して標記）

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和4年第30週(7/25~7/31)【詳細版】

令和4(2022)年8月5日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

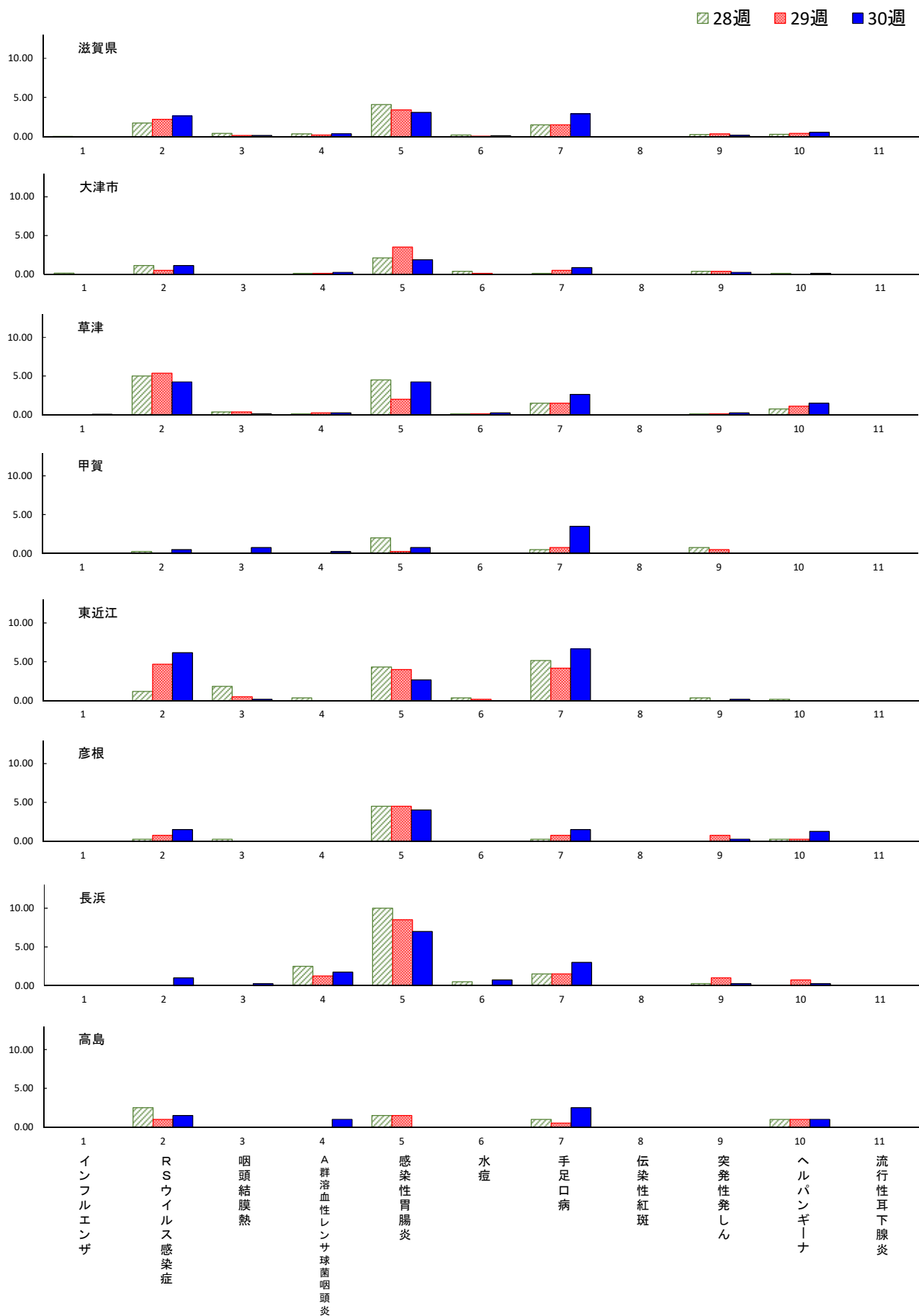
- (1) 感染性胃腸炎は、減少傾向にありますが、「例年より多く」報告されています。腸管出血性大腸菌感染症は、4例報告され、発令基準に達したため、7月27日に「腸管出血性大腸菌感染症多発警報」が発令されました。調理前の手洗いとともに、食品の取り扱いにはご注意ください。
- (2) 手足口病は、東近江保健所管内で警報基準を超過しており、他保健所管内でも増加傾向にあります。
- (3) RSウイルスは、「例年より多く」報告されており、増加傾向にあります。秋から冬に流行するとされていますが、昨年と同様に、夏にかけて増加が見られています。
- (4) 梅毒は、「例年より非常に多く」報告され、過去最多ペースで増加しています。主に性的な接触により感染する感染症です。予防にはコンドームが有用ですが、完全に予防できない可能性があります。皮膚や粘膜の異常など気になる症状があった場合は、性的な接触を控え、早めに医療機関を受診してください。

2. 定点把握疾患(五類感染症)の定点当たり報告数(全国は前週)の値^{i, ii, iii, iv}

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県					保健所別(iv)							基準値				
		2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	全国 (前週) (iv)	警報 開始	警報 終息	注意報
インフルエンザ (定点数:60)	インフルエンザ	0.03	0	0.02			0	0.08	0	0	0	0	0	0.04	30	10	10	
	RSウイルス感染症	1.75	2.22	2.64		○	1.13	4.25	0.50	6.17	1.50	1.00	1.50	2.30	-	-	-	
	咽頭結膜熱	0.42	0.17	0.17			0	0.13	0.75	0.17	0	0.25	0	0.20	3	1	-	
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	0.39	0.22	0.39			0.25	0.25	0.25	0	0	1.75	1.00	0.26	8	4	-	
	感染性胃腸炎	4.11	3.44	3.11		○	1.88	4.25	0.75	2.67	4.00	7.00	0	3.02	20	12	-	
	小児科 (定点数:36)	水痘	0.22	0.08	0.14			0	0.25	0	0	0	0.75	0	0.07	2	1	1
		手足口病	1.53	1.50	2.92			0.88	2.63	3.50	6.67	1.50	3.00	2.50	2.14	5	2	-
		伝染性紅斑	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.01	2	1	-
		突発性発しん	0.28	0.36	0.19			0.25	0.25	0	0.17	0.25	0.25	0	0.30	-	-	-
		ヘルパンギーナ	0.31	0.42	0.58			0.13	1.50	0	0	1.25	0.25	1.00	0.54	6	2	-
流行性耳下腺炎		0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.03	6	2	3	
眼科 (定点数:8)		急性出血性結膜炎	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.01	1	0.1	-
	流行性角結膜炎	0.13	0.25	0.13		○	0	0	1.00	0	0	0	0	0.20	8	4	-	
基幹 (定点数:7)	細菌性髄膜炎	0	0	0.14		○	0	1.00	0	0	0	0	0	0.01	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.02	-	-	-	
	マイコプラズマ肺炎	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.01	-	-	-	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	
	インフルエンザ (入院例に限る)	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.01	-	-	-	

- i. 定点把握疾患:人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。
- ii. 定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令(「警」)します。また、定点当たり報告数が「注意報基準値」を超えた場合に注意報(「注」)を発令します。
- iii. 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)
- iv. **赤字斜字**:警報開始基準を超過、**紫字斜字**:注意報基準を超過

3. 定点把握疾患（五類感染症）の保健所別推移（滋賀県、今週と過去2週）



4. 定点把握疾患（五類感染症）の年齢階級別報告数（滋賀県、今週）

インフルエンザ定点 (60医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大津市保健所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草津保健所	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
甲賀保健所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東近江保健所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
彦根保健所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長浜保健所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高島保健所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

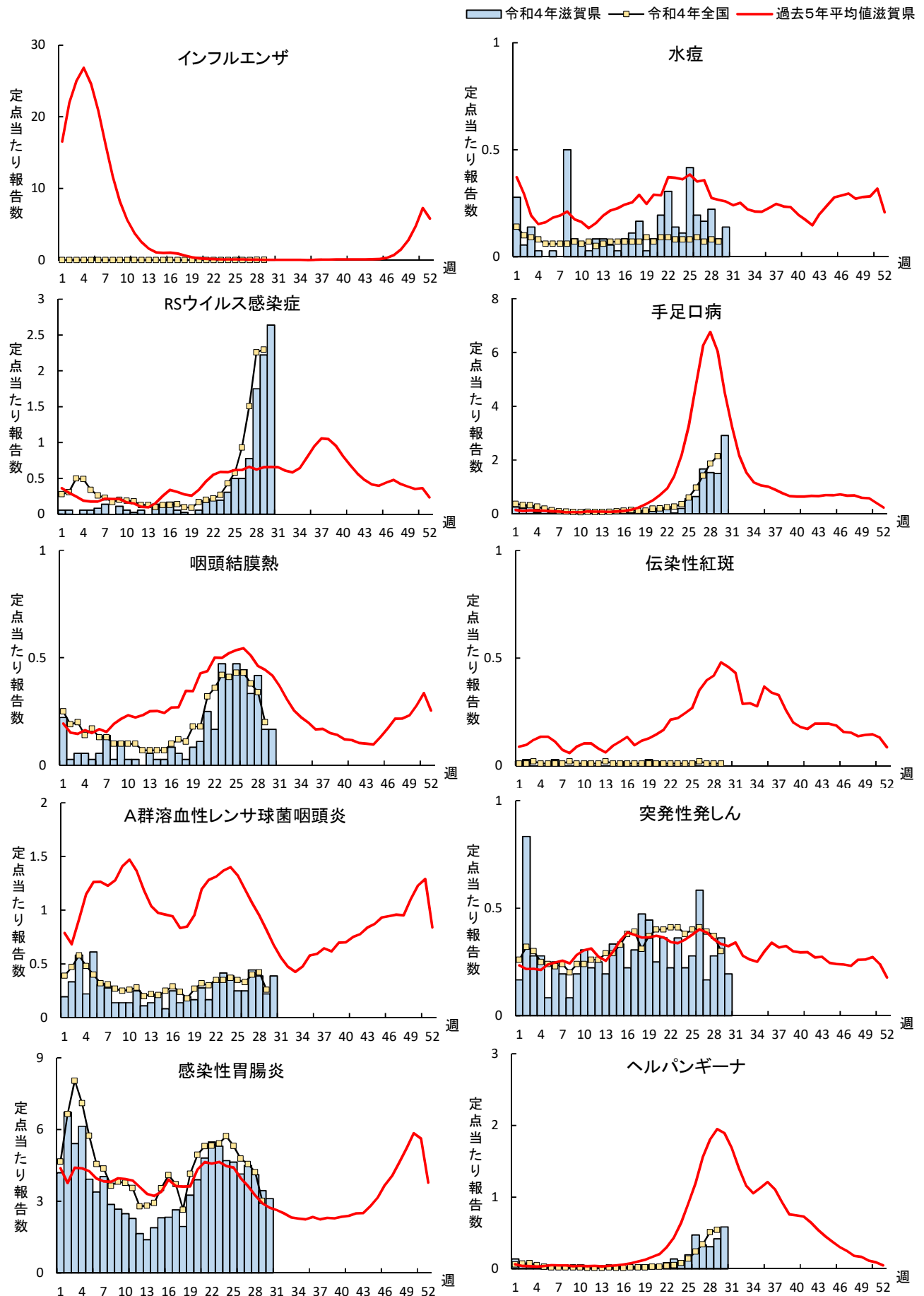
小児科定点 (36医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	95	15	13	21	17	12	9	7	1	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱 (プール熱)	6	-	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	14	-	-	-	2	1	-	2	2	1	2	1	2	-	1
感染性胃腸炎	112	-	7	19	20	12	8	12	9	9	5	4	5	-	2
水痘	5	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-
手足口病	105	1	6	41	32	16	5	3	-	-	-	-	1	-	-
伝染性紅斑 (リンゴ病)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	7	-	3	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	21	3	-	7	6	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

眼科定点 (8医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

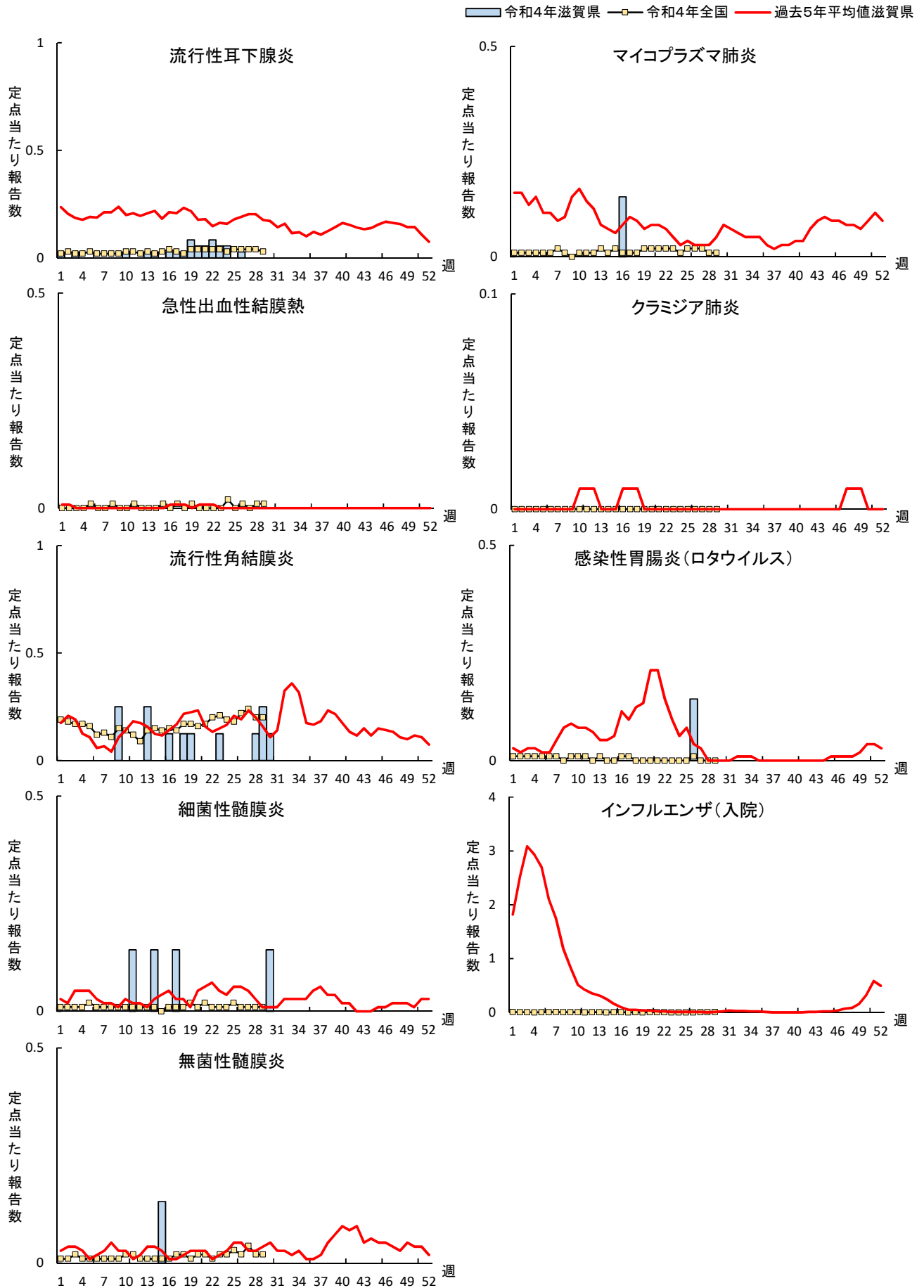
基幹定点 (7医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
細菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

「-」: 報告なし

5-1. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



5-2. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



6. 全数把握疾患 詳細情報（今週報告例）^v

類型	疾患	診断週	保健所	年齢	性別	病型等	推定感染地	病原体等
二類	結核	30	大津市	80歳代	男	無症状病原体保有者	-	-
	結核	30	大津市	60歳代	男	肺結核	-	-
	結核	30	大津市	80歳代	男	肺結核	県内	-
	結核	30	草津	20歳代	女	肺結核	国外	-
	結核	30	甲賀	70歳代	男	肺結核	-	-
	結核	30	彦根	90歳以上	男	無症状病原体保有者	県内	-
三類	腸管出血性大腸菌感染症	30	大津市	20歳代	女	-	県内	O157 VT1VT2
	腸管出血性大腸菌感染症	30	大津市	70歳代	女	-	県内	O157 VT1
	腸管出血性大腸菌感染症	29	草津	10歳未満	男	-	県内	O157 VT1VT2
	腸管出血性大腸菌感染症	30	草津	20歳代	女	-	県外	O157 VT1VT2
	腸管出血性大腸菌感染症	30	甲賀	70歳代	男	-	県外	O157 VT型不明
五類	水痘(入院例)	29	大津市	80歳代	女	検査診断例	-	ワクチン接種歴不明
	梅毒	30	草津	30歳代	男	早期顕症I期	-	-

- v. 感染症発生動向調査事業において、一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症が、診断した医師から最寄りの保健所へ届出されています。

今週の注目すべき感染症

■ 梅毒

(1) 梅毒に関するQ&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

(2) 梅毒とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis/392-encyclopedia/465-syphilis-info.html>

(3) 梅毒 IASR Vol.41 2020年1月号(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-iasrtpc/9342-479t.html>

■ 新型コロナウイルス感染症

(1) 新型コロナウイルス感染症に関する滋賀県の状況について(滋賀県)

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryouhukushi/yakuzi/309252.html>

(2) 現在の感染拡大防止対策について(滋賀県)

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bousai/sougo/313693.html>

(3) 新型コロナウイルス感染症にかかる滋賀県内の感染動向等(日報・週報)(滋賀県感染症対策課)

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryouhukushi/yakuzi/314006.html>

■ サル痘

(1) 複数国で報告されているサル痘について(第2報)(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/monkeypox-m/2596-cepr/11266-monkeypox-ra-712.html>

(2) サル痘について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html

(3) サル痘とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/408-monkeypox-intro.html>

(4) サル痘に関する情報提供及び協力依頼について

<https://www.mhlw.go.jp/content/000945942.pdf>

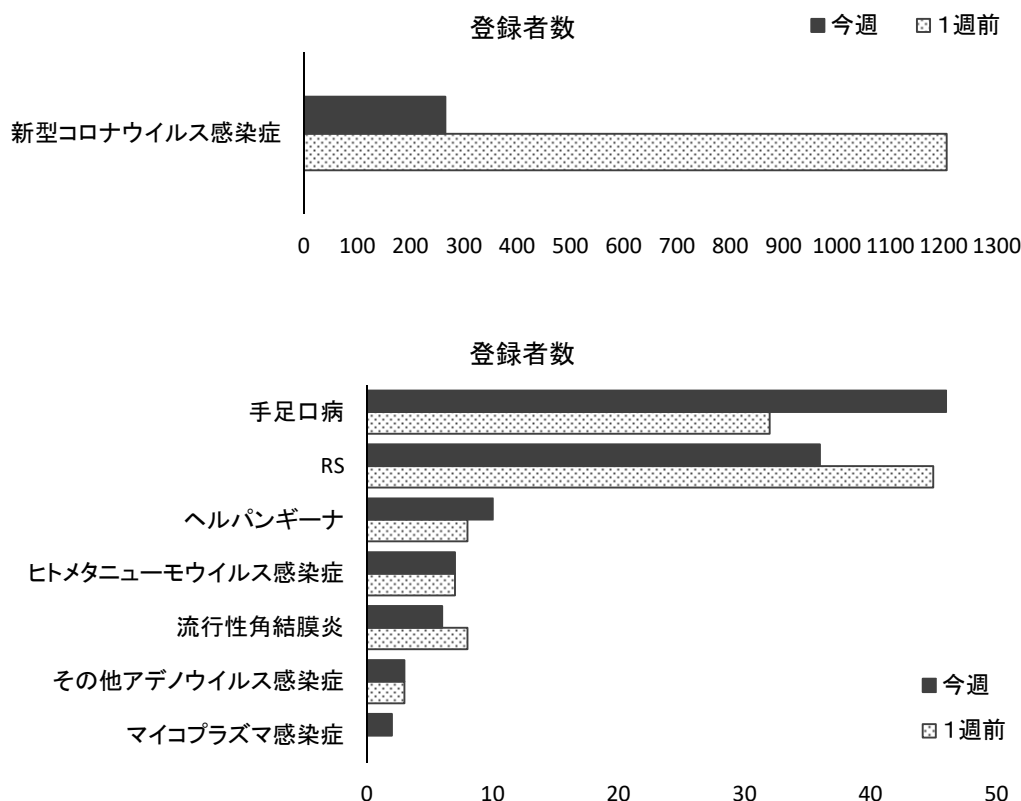
7. 全数把握疾患の累積患者報告数 保健所別（令和4年）^{vi, vii}

疾患	滋賀県			保健所別累積報告数							全国	昨年累積報告数	
	例年より多い	例年より非常に多い	累積報告数	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	(前週)	滋賀県	全国
二類 結核			99	41	20	8	10	15	5	0	8096	169	15799
			7.02	11.97	5.75	5.63	4.42	9.71	3.33	0.00	6.45	11.95	12.52
三類 腸管出血性大腸菌感染症	○		24	8	6	4	3	0	2	1	1275	77	3220
			1.70	2.34	1.73	2.81	1.33	0.00	1.33	2.18	1.02	5.45	2.55
四類 レジオネラ症	○		21	4	1	2	2	8	4	0	998	37	2112
			1.49	1.17	0.29	1.41	0.88	5.18	2.66	0.00	0.80	2.62	1.67
五類 アメーバ赤痢			3	1	1	0	0	0	1	0	285	5	529
			0.21	0.29	0.29	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.23	0.35	0.42
カルバペネム耐性腸内細菌感染症	○		9	1	7	0	1	0	0	0	905	25	2038
			0.64	0.29	2.01	0.00	0.44	0.00	0.00	0.00	0.72	1.77	1.62
クロイツフェルト・ヤコブ病			1	0	1	0	0	0	0	0	96	1	178
			0.07	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.07	0.14
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○		9	2	5	0	1	0	1	0	415	12	646
			0.64	0.58	1.44	0.00	0.44	0.00	0.67	0.00	0.33	0.85	0.51
後天性免疫不全症候群			3	0	3	0	0	0	0	0	495	8	1047
			0.21	0.00	0.86	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.39	0.57	0.83
侵襲性インフルエンザ菌感染症			1	0	0	0	0	1	0	0	98	1	194
			0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.65	0.00	0.00	0.08	0.07	0.15
侵襲性肺炎球菌感染症			11	3	3	1	1	0	3	0	693	16	1388
			0.78	0.88	0.86	0.70	0.44	0.00	2.00	0.00	0.55	1.13	1.10
水痘(入院例)	○		3	1	0	0	0	1	1	0	183	11	298
			0.21	0.29	0.00	0.00	0.00	0.65	0.67	0.00	0.15	0.78	0.24
梅毒	○	○	33	9	13	1	7	0	3	0	6385	46	7873
			2.34	2.63	3.74	0.70	3.09	0.00	2.00	0.00	5.09	3.25	6.24
播種性クリプトコックス症	○		1	0	0	0	1	0	0	0	82	0	159
			0.07	0.00	0.00	0.00	0.44	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.13
百日咳			6	3	0	0	3	0	0	0	284	8	746
			0.43	0.88	0.00	0.00	1.33	0.00	0.00	0.00	0.23	0.57	0.59

- vi. 今年第1週以降に診断された感染症の累積報告数を全国、滋賀県および保健所別に示しています。上段に「今年累積報告数」、下段に「人口10万人当たりの累積報告数」を示しています。
- vii. 今年と過去5年の同時期の累積報告数の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、または「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記

【参考】今週の学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）概況（滋賀県）

滋賀県では、園および学校等により、感染症による欠席者等の情報を学校等欠席者・感染症情報収集システム(https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view_all.php)へ毎日入力いただいています。入力いただいたデータを、本感染症週報と同期間について、集計して掲載しています。



図：学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）において登録数の多い疾患

【全国情報】 国立感染症研究所 感染症疫学センターHP に掲載されています。

- 感染症発生動向調査 週報 (IDWR) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>
- 病原微生物検出情報 (IASR) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>
- インフルエンザ様疾患発生報告 (学校欠席者数) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>

【届出対象疾患】厚生労働省 HP に掲載されています。

- 感染症法に基づく医師の届出のお願い https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou11/01.html

滋賀県感染症発生動向調査週報は、感染症法に基づいて県内の医師、定点医療機関および県内各保健所より報告されたデータを用いて、滋賀県衛生科学センター健康科学情報係において作成しています。

本情報は滋賀県感染症情報センターホームページに掲載しております。

滋賀県感染症情報センターHP:

<https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/kansensyou/>



イラストは滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」